



こきぬ

つくばみらい市立小絹中学校
 生徒数 233名
 学級数 12学級

「関わる」ことを大切に —入学式式辞—

校長 会沢 裕之

今日という日にタイミングを合わせたかのように、校庭の桜が満開です。新入生のみなさんが入学してくるのを、桜とともに心待ちにしていました。

ご多忙の中、ご臨席賜りましたご来賓の皆様、ありがとうございます。日頃より、多方面で本校へのご支援をいただき、感謝しております。生徒への教育は、学校の教職員だけでは成り立ちません。今後も、本校の教育活動へのご理解とご支援をお願いいたします。

保護者の皆様、本日はおめでとうございます。制服に身を包んだお子様の姿に、成長を感じる一方で、緊張の面持ちのお子様の背中を後押しして、ご家庭から送り出していただいたのではないのでしょうか。私たち教職員は、生徒のことを第一に考えていきます。何かご心配なことがありましたら、いつでも教職員にご相談ください。お子様の成長を共に見守り、共に悩み、3年間の中学校生活を有意義なものにしていきたいと思っております。

新入生のみなさん。これから3年間通う小絹中学校は、すばらしい学校です。生徒のことを第一に考えて、学び続ける先生方がいます。皆さんより、一足さきに入学し、皆さんをリードしてくれる2、3年生の先輩もいます。皆さんが快適に学校生活を送ることができるように、環境整備をしてくださる保護者がいます。また、皆さんが安全に登校できるように、毎朝、交差点に立ったり、通学路の整備をしたりしてくださる地域の方々があります。皆さんの通う小絹中学校は、たくさんの方が応援してくださる学校なのです。そこで、みなさんをお願いしたいことがあります。これらの人々に、「関わる」ということです。話を聞く、自分の考えを伝える、あいさつをする、喜んでもらえることをする、一緒に考える。関わり方は、どんな方法でも構いません。自分の得意な方法でよいのです。

それでは、「関わる」ことで、皆さんは、どんなことができるようになるのでしょうか。まず、自分とは違う考え方や生き方と出会うことができます。また、考えや生き方が違う人々と、共に生きていく方法を考えることができます。さらに、これから出会う正解のない課題にも、皆さんが納得できる答えを出すことができるようになります。

今、日本が直面しているのは、正解のない課題です。少子化、人口減少や高齢化、不安定な国際情勢、働く人々の不足。教科書には、これらの課題の説明はあっても、答えは載っていません。解決するためには、教科書に載っている知識や技能を身に付け、それらを使って、いろいろな立場の人と関わって、知恵を出し合うことが必要です。皆さんには、将来、正解のない課題にぶつかっても、それを乗り越え、幸せになってほしいのです。

小絹中学校で過ごす3年間で、さまざまな人と関わって、未来を生きるために必要な力を身に付けていきましょう。



日々の生徒の様子や、学校からのお知らせなどをホームページに掲載しています。下のQRコードを読み取って、スマートフォンやタブレットからもご覧いただけます。



小絹中イメージキャラクター「来夢」



2・3年生の皆さんも、進級おめでとうございます。入学式会場を、心をこめて準備してくれました。「任せてください！」という心強い言葉で、それぞれの分担にしっかりと取り組み、頼もしさを感じました。全校生徒233名がそろい、令和7年度、新しい小絹中学校の始まりです。どうぞよろしくお願いたします。